

小来川地区内公共施設適正化に向けた提言

令和元年（2019年）11月
小来川地区内公共施設適正化検討専門部会

❖❖小来川地区内公共施設適正化に向けた提言❖❖

- 1 グループワークで出された意見・・・・・・・・・・ P 1～3
- 2 グループワークを受けての考え方の整理・・・・・・・・ P 4
- 3 小来川地区内公共施設適正化に向けた提言（総括）・・・ P 5～6

(参考)

- ❖ 小来川地区内公共施設適正化検討専門部会 検討経過
- ❖ 小来川地区内公共施設適正化検討専門部会員名簿

○当専門部会で検討した公共施設

| 施設（機能）名 |
|---------------|
| 小来川地区センター |
| 小来川公民館 |
| 小来川林業研修センター |
| たんぽぽ広場 |
| 小来川小中学校 |
| 小来川保育園 |
| 小来川診療所 |
| 小来川デイサービスセンター |
| ふれあいの郷小来川 |

1 グループワークで出された意見

(1) 1回目グループワーク（平成31年3月14日）・・・ソフト面からのアプローチ

【全体テーマ：10年後20年後の小来川地区をより良くするためにどうすれば良いか】

① 小来川地区の強みと弱み

○小来川の 強み

- * 「自然」・・・景観、環境の良さ、水がきれい。
- * 「食」・・・美味しいものがたくさんある。
- * 「人柄」・・・人が良い、人情が深い、絆が深い。
- * 「伝統」・・・伝統行事、イベント、祭りを大切にしている。

○小来川の “弱み”

- * 「少子高齢化」「人口減」・・・若者が戻らない、空き家が多い。
- * 「生活環境」・・・公共交通、インフラ整備（道路）が不便。買い物・病院等が遠く、生活が不便。
- * 「産業」・・・農業・林業の衰退。働く場がない。

② 10年後20年後の小来川地区をもっと良くするためにどうすれば良いか

3グループから出された意見をカテゴリー別で分類

≪働く場の創出≫

- 「雇用の創出」・・・雇用をこの地区内で生み出していないとならない。近くに職場があることは魅力的なこと。出来れば地域の良い資源を生かした雇用の創出が必要。
- 「働く場所をつくる」・・・生活基盤、働く場所を作っていけば、若者も他からも人が来るのではないかという観点で、農業の会社組織化や、空き家バンクへの登録など、移住者を受け入れやすい環境を整えるなど。

≪施設、環境整備≫

- 「施設の整備（空き家、商業施設、公園等）」・・・空き家等を活用して、外からも来てもらえるようにする。商業施設（お店）を復活する、あるいは、新しいものをよぶなど、来た方も利用出来るような公園等の施設の整備をしていく。
- 「交通整備（公共の乗り物、道路整備 etc）」・・・施設整備のためには、道路と合わせて、バスやそれに代わる交通網、子どもや高齢者の生活（買い物・病院等）のために、交通の整備が重要。

●「道路を改良して安全に通勤や買い物ができる環境を作る」・・他から来る人も小来川に来やすい、不安のない道路を造るのが一番ではないか。

●「インフラを整備する」・・自然をアピールして人をよんだり、働く場所をつくるにしても、道路の整備は不可欠。

●「誰もが気軽に集える場所や機会を作る」・・小来川地区内で色々な人の意見を吸い上げる機会とか、伝統行事等もあるが、もっと気軽に集える場所や機会を作る。

《小来川地区の魅力の発信》

●「自然をアピールして人をよぶ」・・小来川の食、自然など、たくさんの良いもの、小来川の魅力をネット等（SNS）の周知媒体を活用して、小来川以外に広く発信していく。

●「SNSを活用して小来川のPR力の向上を図る」・・情報ネットワーク媒体、SNS等を活用し、小来川の新しい力と、地域独自の特産品を作って、それを広くアピールして、皆に来てもらう場所にする。美しい自然をいつまでも残し、小来川住民みんなが誇れるまちにする。

(2) 2回目グループワーク（平成31年4月22日）・・ハード面のアプローチ

【テーマ：「将来の小来川のまち」に向けた公共施設のあり方】

3グループから出された意見をカテゴリー別で分類

《施設の集約、人が集える（交流ができる）施設》

- 既存施設については、診療所、小来川支所、デイサービスセンターを一つにするとか。学校と保育園を一つにするとか。一体化して、まとめた方が良い。
- 条件として、多くの人が集まりやすい場所、行きやすい、施設自体はバリアフリーで、使いやすい構造にしてほしい。
- 既存施設の一体化に向けては、学校などと一緒にいる場合は、子どもがいるところと、一般の人がいるところの機能のすみ分け、構造的な工夫も必要ではないか。
- 小来川の良い所(自然)を生かすということで、外から人が来るような施設ということで、山や川で遊べるような、そういう施設を備えた公園などを作ってはどうか。
- 最優先の事項を考えると、複合施設だが、それだけでは、この小来川がただ高齢化が進んで、子どもがいなくなって、過疎化が進んでいくという未来しか想像できない。
- それを打開する策として、人を集めるということで、「温泉を掘る」など、人が集まれる場所、他の地域からも人が集まる場所をつくっていくことが小来川の発展していく未来に繋がる。

- そういった場所をつくって、そこでおじいちゃん、おばあちゃんの力を借りて、シルバー人材センターのようなものを利用して、小来川の中で地域の人々が活性化していけるような場所が必要。
- サイクリングコース、サバイバルゲーム、ボルダリング、キャンプ場等々の人が集まれる施設を作った方が良い。
- 公共施設については、基本的に複合化。面積だけで言えば、小中学校一つで、支所機能や診療所等の諸々の施設が入ってもスペース的に余裕があるのではないか。
- 学校と他の機能を区切って分けていかなければという意見もあったが高齢者と子どもが触れ合えるような作り方で利用していけるのが良いのではないか。
- 複合施設ということで考えれば、お店的なものとか、銀行・郵便局等の機関を含めて一つの施設のなかで、やっていけるのが良い。
施設の有効活用ということで、皆が集える場所、道の駅とか、山の駅とか等の施設をつくるというか、既存の施設を利用していかなければならないのではないか。

《地区外から人を呼び込むための施設としての有効活用》

- 外から来た方が泊まれるような施設とか、老人が年をとったら住めるような家とかを整備する。道の駅とか、山の駅、直売所等の施設。
- 直売所については、小来川地区内の住民のためのお店を兼ねたもの。(制度上の話も解決しなければならない) 公共コンビニ等。
- 資金については、クラウドファンディングを利用できないか。
- 重要な道路の整備や、交通機関の整備も必要。
- 老人対策として独居老人とか老夫婦が住めるような集合住宅、外からも地域内の高齢者も入れるような老人ホームを作ってはどうか。
- 福寿荘(民間施設)を再開してもらおうとか、道の駅とかなども出来ないか等の話が出た。運動公園等も道の駅等と一緒に、人が集まれる場所を作ることが必要と考えた。
- 学校に集約することを前提に、他の施設については、民間に貸し出して、利用していくということで、地元の活動するための資金も確保しなければならないという中で、行政に頼ってもなかなか出来ないところだと思うので、民間の力というところを考える。

2 グループワークを受けての考え方の整理

◆ ハコモノ（ハード面）の考え方の方向性

⇒公共施設機能は集約する（施設の集約化・複合化）

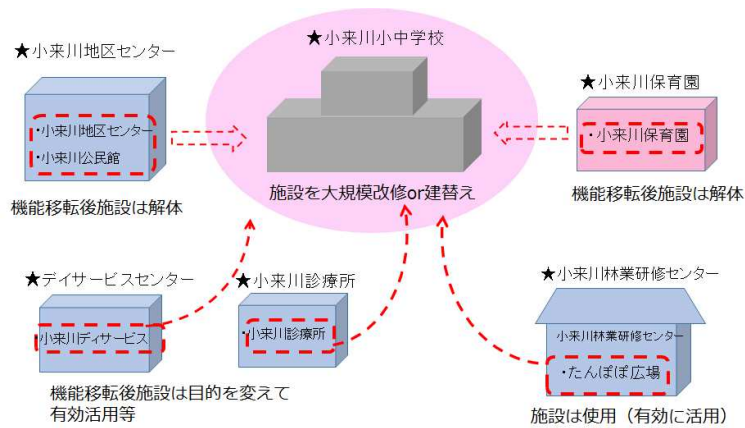
◆ ソフト面の対応で実現可能なこと

⇒ハード面の整備は財政的なハードルがあることから、ハード面では困難なことをソフト面の対応で解決できることも合わせて考える。

公共施設の集約化（施設再編）をイメージとして、2パターンで整理

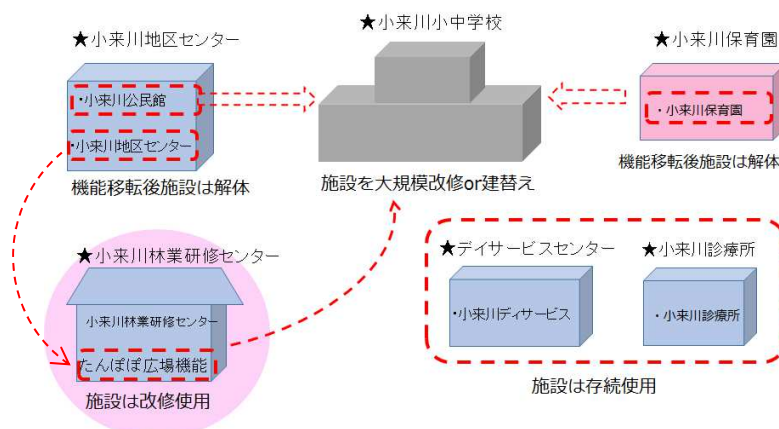
パターン1 全ての公共サービス機能を1つに集約化

《小来川小中学校を拠点として》



パターン2 公共サービス機能を複数施設拠点で集約化

《小来川小中学校を拠点としながら複数施設を活用》



3 小来川地区内公共施設適正化に向けた提言（総括）

地区内公共施設の適正化に関しては、市の方で当初提示した再編対象施設だけではなく、地区内住民に必要な機能面で施設の再編を検討されるとともに、地区外との交流の拠点として活用転換を図ることを念頭に、既存施設の使い方について柔軟な活用方法を工夫検討していただきたい。

また、この提言を受けて、今後、市が具体的な検討を進める過程で、地区住民との意思疎通を図りながら、ともに考え、具現化するよう考慮いただきたい。

（１）公共施設再編の考え方

小来川地区内住民の交流の拠点が必要としての観点からは、現在地区内で用途ごとに分散されている施設を可能な範囲で集約することが必要である。

- ① 地区内住民の交流の拠点、合わせて、災害時等の防災機能の強化も加味しながら、小来川小中学校を核として検討していただきたい。
- ② 学校施設内への機能の集約化に関しては、学校内に入れるべき機能について、グループワークにおいて意見として挙げられた、保育施設、児童クラブ、デイサービス、地区センター公民館、診療所等について、用途上の規制や物理的な許容範囲を整理しながら具体的に検討していただきたい。
- ③ 当該専門部会の検討においては、学校機能を存続する前提で、機能の集約化を考えていることから、先に掲げた機能を全て学校の建物に集約することは、物理的に困難と思われる。このことから、学校内に集約が不可能な機能については、学校以外の施設の活用や学校敷地周辺での施設の集約の可能性について検討していただきたい。
- ④ また、学校施設への他機能の集約に際しては施設の使い方の部分で、学校機能を第一に考え、子ども達の安全という点にも十分配慮、注意いただきたい。一方で、小来川地区の強みである人と人との繋がりの深さというものを最大限に生かして、多世代の交流拠点として、子どもたちを地区住民全体で守り育てる場として学校を位置付けられれば魅力的な施設となるとの意見もあったことから、具体的な再編検討の際、参考にしていきたい。
- ⑤ 学校を地区の多世代交流の拠点とするという意味では、既存の学校施設内の給食室や図書室、体育館等、様々な世代の方がその使い道を共用できる可能性があるスペースは地区内で共用できる仕組み等も構築していただきたい。

- ⑥ また、学校を拠点とした機能の集約化、施設複合化の具体的検討に際しては、他自治体の先進事例等を検証、調査し、具体的な検討に活かしていただきたい。

(2) 交流や地区活性化のための公共施設活用

小来川地区が賑わい、活性化を生むために、地区外の人をどうやって呼び込むか、地区外との交流の場をつくることも、重要な視点であり、小来川に働く場が生まれることに直結はしないかもしれないが、地区外との交流が深まることで、小来川地区の活性化に結びつけることが必要である。

- ① 地区全体で考えると、学校近隣施設の「ふれあいの郷」の使い方を工夫し、学校とも連携した施設管理運営をすることで、地区外との交流ということを実現できる施設と考える。ふれあいの郷を地区内と地区外との交流、活動の拠点施設として有効に活用していただきたい。
- ② 施設の集約化によって、行政目的を持たなくなる施設については、民間に貸し出す等、利活用してもらうことで、地区内の経済活動を生むなど、民間の力ということも含めて施設の有効な活用方法を検討していただきたい。既存施設の活用の際してや新規事業の導入も含め、国の施策や民間の発想・力を活用しながら、小来川の主要産業である林業を前向きに捉え、活性化に繋げる工夫をしていただきたい。
- ③ 地区内に人を呼び込むための施設として、道の駅、自然等を活かした公園整備、働く場の創出、商店の整備、道路環境の向上、交通インフラの充実等、地区が活性化するための視点も重要との意見も多く挙げられたが、これらの実現には、費用面において実現が困難なものも多いと思われる。一方で、小来川地区内の既存公共施設の活用、発想の転換、工夫により、間接的に人を呼び込む目的を達成する施設になり得る可能性があることから既存施設を最大限活用していただきたい。
- ④ 当該専門部会でこれまでに出された様々な意見を踏まえて、公共施設の集約、更には有効な活用方法について、更に検討を深め、小来川地区全体が活性化することをハード、ソフト両面で実現していただきたい。

◇ 小来川地区内公共施設適正化検討専門部会 検討経過

●小来川地区内公共施設適正化検討専門部会の構成及び役割（位置づけ）

日光市公共施設適正化推進市民委員会設置要綱第8条第1項に基づき公共施設適正化推進市民委員会の所掌事務のうち、公共施設ごとに具体的な取組内容の検討を行うための専門部会として設置。平成31年2月7日に設置。

＜構成＞

- ・委員：関係団体からの推薦委員18名
- ・アドバイザー：1名（専門的な知識や経験を踏まえ、必要な助言を行う）

＜役割＞

- ・地区内に所在する再編等対象施設の適正化に関する取組内容の検討協議を行う

●検討の経緯（会議の概要）

| | |
|-------------------|---|
| 第1回 平成31年2月7日 | 【議題】 (1) 小来川地区内公共施設適正化検討専門部会の設置目的、部会員の役割 (2) 日光市並びに小来川地区の公共施設を取り巻く現状と課題 |
| 第2回 平成31年3月14日 | 【グループワーク】 ・10年後20年後の小来川地区をより良くするためにどうすれば良いか |
| 第3回 平成31年4月22日 | 【グループワーク】 ・将来の小来川のまちに向けた公共施設のあり方 |
| 第4回 令和元年5月30日 | 【議題】 (1) 小来川地区内公共施設の再配置の考え方の整理について (※2回目、3回目会議グループワーク作業に基づいた考え方の整理) |
| 第5回 令和元年10月7日 | 【議題】 (1) 小来川地区内公共施設適正化に向けた提言（案）について |

◇ 小来川地区内公共施設適正化検討専門部会 部会員名簿

(順不同、敬称略)

| No. | 職 名 | 氏 名 | | 選出団体 |
|-----|------|--------|--------|------------------|
| | | 第2回目まで | 第3回目以降 | |
| 1 | 部会長 | 佐藤 崇 | | 滝ヶ原自治会 |
| 2 | 副部会長 | 柴田 雄一郎 | | 小来川のみらいをテラス会 |
| 3 | 部会員 | 中村 傳七 | 峰崎 茂房 | 宮小来川自治会 |
| 4 | 部会員 | 伊原 清 | | 中小来川自治会 |
| 5 | 部会員 | 福田 久雄 | 軽部 三郎 | 南小来川自治会 |
| 6 | 部会員 | 大橋 芳明 | 星野 誠 | 東小来川自治会 |
| 7 | 部会員 | 福田 伸一 | | 西小来川自治会 |
| 8 | 部会員 | 佐藤 和之 | | 日光林業振興会小来川支部 |
| 9 | 部会員 | 伊原 九十九 | | 小来川地区長寿会連合会 |
| 10 | 部会員 | 大橋 孝夫 | | 小来川体育協会 |
| 11 | 部会員 | 福田 幸代 | | 小来川地域社会福祉協議会 |
| 12 | 部会員 | 加藤 孝 | | 日光市立小来川小・中学校 |
| 13 | 部会員 | 阿部 稔 | | 日光市立小来川小・中学校 PTA |
| 14 | 部会員 | 佐藤 美佐子 | | 小来川保育園保護者会 |
| 15 | 部会員 | 我妻 沙織 | | 小来川保育園保護者会 |
| 16 | 部会員 | 星野 光一 | | 小来川教育振興会 |
| 17 | 部会員 | 柴田 邦彦 | | 小来川のみらいをテラス会 |
| 18 | 部会員 | 上吉原 麻紀 | | 地域おこし協力隊 |

○アドバイザー

| 役 職 | 氏 名 |
|--|-------|
| 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 株式会社 コンセンサス・デザイン室長 | 西尾 真治 |